

2024年7月28日（聖霊降臨後第10主日、特定12、B年）

牧師メッセージ

「小さなささげものから、すべての人の空腹は満たされる」

（ヨハネによる福音書6:4-15）

司祭ヨセフ太田信三

山の上におられたイエスの元に集まった人の数は男だけで五千人、女性や子供たちなどを含めると一万人とも、一万五千人いたともいわれます。それだけの人がイエスのところへと押し寄せたのは、人々がイエスの行った様々な奇跡を目の当たりにしたからです。イエスが行った奇跡は、神の国がどのようなところなのかを示すしるしでした。人々はそのしるしを正しく理解したわけではありません。けれども、当時のユダヤ人たちは救い主の出現を心から願っていたので、「もしかしたらこの人が我々を救い出してくれるかもしれない」と期待したのです。目をあげてその人々をご覧になったイエスは、人々の苦しみを心から感じ取り、人々の空腹を満たしたいと願いました。空腹とは、もちろん食事を必要としていたということですが、それと同時に、満たされない苦しみや困難を表しています。

しかしそこは山の上ですから、一万五千人分の大量のパンが売っているはずもありません。たとえあったとしても、その人数分のパンを買うためには大金が必要です。いずれにせよ、人々の空腹を満たすための食事を確保することはどう考えても不可能です。そこにアンデレが大麦のパン5つと魚2匹を持っている少年を連れてきました。イエスはそのパンと魚を受け取り、人々を座らせ、感謝の祈りを唱えてから分け与えました。そして、なんと人々は満腹したのです。さらに残りを集めると12の籠がいっぱいになりました。全く信じがたい話です。しかし、たしかに人々は満たされたのでした。

イエスはこの奇跡＝しるしによって神の国を人々に明らかにしました。人間には不可能でも、神の国ではすべての人が空腹を満たされること。そしてこのイエスによってこそ、人間には奇跡としか思えないこの神の国が実現するのだ、ということを示されたのです。

この奇跡は少年の差し出したわずかな献げ物から始まりました。それが感謝の祈りとともにささげられ、分かち合われたとき、大勢の人を満たす糧となりました。ここに、神の国へのヒントがあります。わたしたちもまた、それぞれが小さくとも感謝とともに神にささげるなら、そこから神の国が実現するのです。たとえば大斎克己献金が全国から集められると、驚くほどの金額になり、大きな働きを支えるほどの力になります。また、それこそみ言葉の種や聖餐式で分かち合われるパンとぶどう酒は小さくとも、わたしたちすべてを養う糧となります。このように考えると、今日の話も奇跡のようでありながら、わたしたち自身に起こっている神の真実の業のように感じられます。東京聖テモテ教会の121年の歩みは、多くの先達がわずかなものでも、感謝と共に神にささげてきたからこそある、まさに奇跡の実現です。わたしたち自身がこの奇跡のなかで今日も集められ、生かされている信じ、小さくとも自分自身を感謝とともに神に差し出し、神の国の実現へ参与する者として生きていくことができますように。